

環境経営レポート

対象期間
2022年7月1日～9月30日

テラメックス株式会社



もくじ

• 環境経営方針	-----	P2
• 組織の概要	-----	P3
• 認証・登録対象組織活動	-----	P3
• 実施体制	-----	P3
• 主な環境負荷の実績	-----	P4
• 環境目標及びその実績	-----	P4
• 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組計画	-----	P5
• 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、 並びに違反、訴訟の有無	-----	P6
• 緊急事態対応の試行・訓練	-----	P6
• 代表者による全体評価と見直し	-----	P6

作成：2022年11月18日

環境経営方針

環境経営理念

テラメックス株式会社は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、企業活動のすべての面において環境の保全に配慮し、持続的発展が可能な社会の構築に貢献します。

基本方針

当社の事業活動は、臨床検査装置などの製品の設計・開発・製造・販売・保守を行っています。当社はこの事業活動において生じる環境負荷の低減に努め、環境保全を推進するために技術的な可能性及び経済性の調和を図りながら次のように行動します。

1. 事業活動において、環境に関わる法律・規制その他の公的基準を遵守します。
2. 当社の主力事業である、臨床検査装置の設計・開発・製造・販売・保守までの各領域において、技術的・経済的な事情を考慮の上、環境に与える影響を低減するとともに、循環型社会の実現に努めます。
3. 環境経営活動の継続的改善を推進するにあたり、毎年度、目的・目標の設定、見直しを行い、改善活動に取り組みます。
 - ① 省エネルギー、省資源活動の推進
 - ② 廃棄物の発生抑制、再使用、リサイクル活動の推進
 - ③ 製品の設計・開発段階での環境への配慮
 - ④ 規制化学物質使用量の削減
 - ⑤ 環境負荷の低減に配慮した物品・設備の調達
4. 環境経営方針は、全社員に周知するとともに、環境教育を行い社員の環境に関する意識の向上を図ります。
5. 環境管理に関する情報は、社内外に公表し、地域社会とのコミュニケーションを図ります。

テラメックス株式会社
代表取締役 吉川 和宏
2022年 7月1日

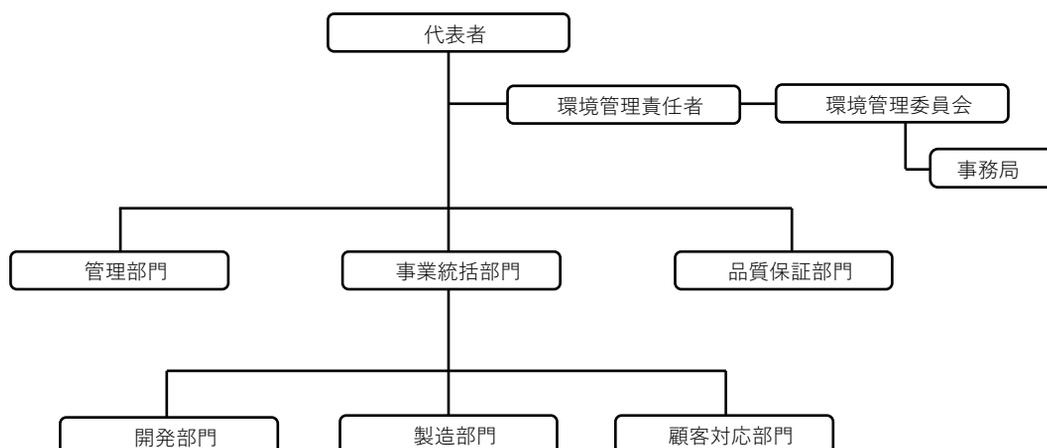
組織の概要

1. 事業者名
代表者 テラメックス株式会社
 代表取締役 吉川 和宏
2. 所在地 〒612-8412 京都市伏見区竹田中川原町354
3. 環境管理責任者
担当（事務局） 管理部 部長 大西 正純
 管理部 田中 紋子
連絡先 TEL 075-606-2800 / FAX 075-606-2770
 <http://www.teramecs.com>
4. 事業内容 臨床検査機器の開発・製造・販売・保守サービス
 バイオテクノロジー関連機器の開発・製造・販売・保守サービス
 （取得認証 ISO 9001:2015、ISO 13485:2016）
5. 事業の規模
従業員数 52名（役員3名含む）
床面積 999.72㎡
資本金 4000万円
関連企業 寺崎電気産業株式会社
6. 事業年度 4月1日～翌年3月31日

認証・登録対象組織活動

- 登録組織名 テラメックス株式会社
- 活動 臨床検査機器の開発・製造※・販売・保守サービス
 バイオテクノロジー関連機器の開発・製造※・販売・保守サービス
 （※ファブレス企業のため実際の製造工程は関連企業及び外注先にて実施）
- 対象 全社・全事業（関連企業及び外注先は適用範囲外）

実施体制



主な環境負荷の実績

	単位	2021年度		2022年度	
		通年	7-9月	4-6月	7-9月
二酸化炭素排出量※1	kg-CO ₂	28,994	7,880	-	7,293
廃棄物排出量	t	※2		1.13	3.71
一般廃棄物排出量 (もえるごみ)	t	未計量		0.20	0.17
産業廃棄物排出量※3	t	10.36	-	0.93	3.54
水道水使用量※4	m ³	421.0	101.0	95.5	96.5

※1：電力の二酸化炭素排出係数は0.351 kg-CO₂/kWhを使用、ガソリンの二酸化炭素排出係数は2.32 kg-CO₂/Lを使用

※2：一般廃棄物未計量のため算出不可

※3：マニフェスト記載体積（m³またはℓ）より、重量換算係数を乗じ算出

※4：水道検針は2か月単位の発行であるため、検針期間が対象期間を跨ぐ場合、検診値の半数を結果として算出した

環境目標及びその実績

	単位	基準値	2022年度 7-9月		
		(基準期間)	目標	実績	達成状況
電力からの二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	7,626	7,448	7,119	○
	基準比	2021年度 7-9月	97%	93.4%	
一般廃棄物排出量の削減(もえるごみ)	t	0.20	0.18	0.17	○
	基準比	2022年度 4-6月	90%	85.4%	
水道使用量	m ³	101.0	99.0	96.5	○
	基準比	2021年度 7月-9月	98%	97.5%	
製品・サービスサービスの環境性能向上 検討案件数※5	件数	-	1	3	○

※5：開発段階の製品仕様に関わる内容であるため、案件数を対象とした管理としています

環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組計画

電力による二酸化炭素排出量の削減

◎よくできた、○まあまあできた、△あまりできなかった、×全く出来なかった

取組計画	達成状況	次年度	評価・次年度の取組み内容	
エアコン	デマンド監視と空調自動制御	△	継続	工事の着手待ち（年内稼働予定）
	夕方自動OFF設定	◎	継続	18時30分に自動でOFFになる設定
	南西窓に遮熱フィルムを設置	◎	継続	体感としても涼しく感じられた
PC	離席時ディスプレイOFF	◎	継続	自動OFF設定も併用し、殆どの従業員が実施できている
	省エネ機種を選定・数を減らす	△	継続	機種選定のガイドライン策定などを継続して検討する
食堂	ポット保温電力削減 （水道直結タンクレス給湯導入）	◎	継続	ポットを3台から1台に減らせた
	冷蔵庫（業務用・飲食用）の整理・統合・買い替え	○	継続	対象となる冷蔵庫を調査、整理を実施中 買い替えについては次年度検討
天井照明	昼休憩時に照明をOFF	◎	継続	実施できている
環境試験機	ピーク分散運用 使用量把握	△	継続	方法検討・費用算出済み

水使用量の削減

取組計画	達成状況	次年度	評価・次年度の取組み内容	
雨水利用	雨水タンクを設置	◎	継続	散水、屋外清掃などに活用中
トイレ	トイレ用擬音装置の設置	◎	継続	一定の利用者があるため継続中
	節水性能の高いものへ設備更新	△	保留	概算見積と効果試算を実施 設備更新時期と合わせ更新を検討
食堂	ロスが出ないポットの運用 （水道直結タンクレス給湯導入）	◎	継続	ポットを3台から1台に減らすことがで、 廃棄していた水を減らせた
	食洗機の設置	◎	継続	共用食器やマイカップの洗浄に利用中 まとめて洗浄することで、水使用量の削減につながった
	タッチレス水栓	×	中止	効果の高い場所が無いため検討中止 （トイレには既に導入済み）
実験等	実験器具洗浄 啓蒙	◎	継続	掲示により啓蒙中

廃棄物の削減

取組計画	達成状況	次年度	評価・次年度の取組み内容	
もえるごみ	書類ごみの分別・リサイクル （機密文書溶解処理サービスの活用）	◎	継続	書類ごみのほとんどをリサイクル（溶解処理）へ移行完了
	プラスチックごみの分別	◎	継続	掲示・啓蒙の効果があり、産廃ゴミなどがごみもえるごみへ混入しなくなった
	産廃ゴミの分別	◎	継続	
総量	両面印刷等の推奨（啓蒙）	○	継続	引き続き啓蒙を続ける
	不要な郵便物を減らす仕組み化	◎	継続	仕組み化済（返送専用ボックスを設置中）
	通い箱化の促進	△	継続	品目・取引先候補を選定中 継続して実施する
	文書類の電子化	△	継続	医療機器製造業として薬機法などの規制に対応した電子化システムが必要となるため、システム選定と構築案の作成中
啓蒙	ゴミ回収と計量の輪番制導入	◎	継続	環境意識向上のため、社長を含めた全従業員が参加し、オフィスから出るゴミの回収と計量を輪番制で実施中 次年度以降も引き続き実施予定

製品・サービスの環境性能向上

取組計画	達成状況	次年度	評価・次年度の取組み内容	
検討案件 1件以上	合計3件の検討を着手した ・ 製品仕様の環境性能向上に関する案件 2件 ・ 製品含有化学物質管理に関する案件 1件	◎	継続	次年度は左記の案件の検討を進めるとともに、継続して施策案を検討する

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適応される法規制	適応される事項（施設・物質・事業活動等）	遵守評価
毒物及び劇物取締法（毒劇法）	毒劇物の管理	遵守
消防法	消火設備の設置・維持・検査・報告	遵守
家電リサイクル法	家電類の廃棄	遵守
廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）	一廃棄物、産業廃棄物	遵守
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（フロン排出抑制法）	第一種特定製品の簡易点検 フロン類の登録回収業者による適切な回収 フロン類回収時の委託確認書交付と引取証明書の保存（3年間）	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、違反、訴訟、外部からの苦情等も過去1年間ありませんでした。

緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定・実施内容	実施日	対象者	評価	手順書等の変更
想定：火災 消防署通報体験、屋外避難訓練、AED訓練	2022/5/24	各部代表者 計14名	コロナ禍により2年ぶりに実習を伴う訓練をじっしした。AEDや通報を実際に行うことで手順の確認ができた	<input type="checkbox"/> 要 <input checked="" type="checkbox"/> 否
想定：広域災害など 安否確認ショートメール 関連会社実施分	2022/9/2	従業員 53名	特定の携帯電話会社で受信できない場合があるため、手順を変更し対応した	<input checked="" type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 否
想定：広域災害など 安否確認ショートメール 自社実施分	2022/10/5	従業員 54名	送信手順に不備があり中止 手順書を改定した	<input checked="" type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 否
	2022/10/13		対象者全員の返信を確認した	<input type="checkbox"/> 要 <input checked="" type="checkbox"/> 否

代表者による全体評価と見直し

活動を開始したばかりで十分な成果が得られるまでには至っていないが、エコに関する意識が根付きつつある事は確かであり、引き続き活動を継続すると共に、より大きな効果が期待できる「製品やサービスに対する環境性能の向上」について、具体的な計画や目標を定め、活動を進めることとする。
なお、環境経営方針／目標／計画については現状のままとし、年度実績を以って適切に見直し／変更を行うこととする。

【その他】環境経営規程を定期的に見直す事。

項目	改善の要否	決議事項の概略
環境経営方針	<input type="checkbox"/> 要 <input checked="" type="checkbox"/> 否	
環境経営目標及び環境経営計画	<input checked="" type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 否	環境負荷の軽減に加えて、製品・サービスに関する環境性能の向上に対する取り組みを加速させる必要があるため、それらを実施しやすいように仕組み作りを行うこと
環境経営規程及び実施体制	<input checked="" type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 否	環境活動への参画を促し、環境意識向上を目指す上で、環境管理委員の任期を最大2年程度とし、ローテーションをすること